上伊那地域における家畜防疫強化への取組

○杉本和也、小澤尚、太田俊明
（伊那家畜保健衛生所）

要約

本県では2013年度までの３年間、文科省事業を導入し、鳥インフルエンザ対策を推進。上伊那地域では、2013年度から農場、机上、屋外実技の総合型の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）家畜防疫演習を３年連続で実施。当所は演習を通じ、関係者に対し防疫意識を啓発。2015年２月、農協が研修会を開催、同年８月には伊那市が研修会を開催。同年10月、伊那市及び農協と協力し管内最大規模の採卵養鶏農場を発生想定として防疫演習を実施。演習にあたり、当所は文科省事業で導入した電子機器を活用、想定農場は埋却候補地の再検証、伊那市は焼却埋却の検討協力、農協は大型車両の発泡消毒実演協力、建設業協会は埋却溝掘削の検討協力、獣医師会は協定協力獣医師の出席など、関係機関が積極的に演習に参画。さらに当所では、国主催の防疫演習に参画、国の備蓄資材視察研修を企画、2016年２月に家きん衛生の研修会を開催など、鳥インフルエンザ対策を中心に地域の家畜防疫強化の取組を継続中。

１．はじめに

長野県は、動物衛生研究所などとともに文部科学省の「社会システム改革と研究開発の一体的推進」プログラムに参画し、鳥インフルエンザ対策に取り組んだ。事業は2013年度で終了したが、当所ではその後も地域の家畜防疫強化に継続的に取り組んだ。

２．過去２年の取組

2013年度の防疫演習では、机上演習の中で、事業で整備したタブレットなどを用い、農場との情報の共有を行った。また、獣医師会に対しても防疫業務への協力についての研修会や防疫演習の中で鶏の採血や殺処分など実技演習を行った。

2014年度には、防疫演習を前に地方事務所でHPAI研修会を開催した。防疫演習では、机上演習の中で、前年度と同様に農場との情報共有に加えてGISを用いた上伊那と下伊那での管轄区域を超えた地点情報の共有を行った。また、実技演習では鶏を用いた採血や殺処分の演習に加えて、新たに導入した発泡ノズルを使用して公用車の発泡消毒の実演を行った。

３．2014年度防疫演習後から2015年度防疫演習までの取組

(1)上伊那農協HPAI研修会

2015年２月に農協主催でHPAI研修会が開催。組合養鶏部農家や畜産課に加え、営農部の畜産課以外の職員も

出席した。HPAI の基本事項に加え制限区域や埋却溝の規模などの説明を行い、養鶏農家から防疫措置について質問があるなど伝染病発生時の理解促進に役立った。また、この研修会をきっかけに 2015 年度の HPAI 防疫演習の発生想定農場を、上伊那最大養鶏場である伊那市の組合養鶏部農家に決定したことで、防疫演習に向けて農家、農協ともさらなる話し合いを進めていくことになった。

(2)伊那市 HPAI 研修会

2015 年８月には、防疫演習を伊那市の養鶏場を発生想定農場として開催することになったのをきっかけに、伊那市主催で HPAI 研修会を行った。市役所農政課や危機管理課など６課職員の他、防疫演習に向けてということもあり、発生想定農場主と農協も出席した。HPAI の説明に加え消毒ポイントの運営や市としての対策本部の設置など市役所内部での発生時の体制づくりの依頼を行った。とくに汚染物品の焼却埋却に関しての話し合いでは、市の施設での焼却は現在できないが、埋却地については検討していくという回答を得られた。

(3)2015 年度防疫演習当初案

前年度までの防疫演習の内容や上記研修会をふまえ、本年度の上伊那地域 HPAI 防疫演習は机上演習、現地農場への立ち入り、実技演習として新たに大型車両発泡消毒の実演、埋却溝の掘削演習を行うことを当初案として打合せを進めていった。

(4)発生想定農場主との打合せ

発生想定農場については、より実態に沿った防疫措置案のために、定期報告で報告されている埋却候補地について改めて見直し、再設定を行った。加えて、実際に埋却するにあたっての実状などの聞き取りを行った。また、農場直近の消毒ポイントについても農場主から敷地境界部の場所を提案され、見直しを行った。

図１　発生想定農場主との打合せ

図２　埋却候補地・消毒ポイントの再設定

(5)大型車発泡消毒演習打合せ

大型車発泡消毒演習については、全農ミルクステーションの敷地で行うことになった。発泡消毒を行う車両については、常駐している集乳車と農協が手配した車両の２台を使用し、当日の会場準備も全農と農協の協力のもと行った。

(6)埋却溝掘削演習打合せ

埋却溝掘削演習に向けて、建設業協会との打合せも行った。掘削演習について、作業への協力や業者選定などの検討の他、掘削演習候補地の選定についても協力の申し出を受けた。県と協会との協定に基づき、今後も有事に備えた情報共有など協力体制を整備することを確認した。

(7)埋却溝掘削演習候補地検討

埋却演習候補地については、当初提案したミルクステーション内の敷地は掘削不可ということで、農協から休耕地など複数の農地の提案、上記のように建設業協会からも土地の検討協力申し出があったが、重機が入る都合などを考慮し、最終的に伊那市が所有し、整備した造成地で行うことに決定した。

図３　埋却溝掘削演習候補地の検討

４．上伊那地域 HPAI 防疫演習

これらの打合せを重ねたのち、10 月 27 日に上伊那地域 HPAI 防疫演習を開催。午前に机上演習と現地農場への立ち入り、午後には大型車両発泡消毒演習、埋却溝の掘削想定演習を行った。

(1)机上演習・現地農場への立ち入り

午前中の机上演習では、連絡会議ならびに対策本部設置演習を行った。対策本部演習では上伊那地方事務所長、副所長、農協、獣医師会会長など関係機関約４０名が出席。また並行して現地農場へも実際に立ち入り、農場内や採材の様子などの画像を農場から送信し、連絡会議上での共有も行った。

図４　連絡会議設置演習

(2)大型車両発泡消毒演習

午後には、まず全農ミルクステーションでの大型車両発泡消毒を行った。消毒は発泡剤を加えた消毒液と加えないもので比較し、多くの参加者が実演。とくに、消毒ポイント運営の中心となる農業改良普及センターの職員は合羽など装備を持参し、実際の対応を想定して演習を行った。

図５　大型車両発泡消毒演習

(3)埋却溝掘削想定演習

演習の最後には、埋却溝掘削想定演習を伊那市所有地で行った。実際の掘削作業は作業にかかる費用の関係で実施できなかったが、既存の深さ２ｍの穴がある造成地の前で、建設業協会の土木施工管理技士による想定埋却溝の掘削作業についての説明などを行った。

図６　埋却溝掘削想定演習

５．国主催の机上防疫演習参加

上記に加え、今年度当所は 10 月９日に国主催の机上防疫演習に参加。防疫措置案を組み立てる中で、大型防疫資材については、資材の使用に関する手続きや規模、使用法など具体的な情報がなく検討不可。そのため、検疫所に保管されている国の備蓄防疫資材の視察研修を立案した。

６．備蓄防疫資材視察研修

園芸畜産課の働きかけにより 12 月４日に愛知県野跡検疫場で行われた備蓄防疫資材視察研修に他家保職員とともに参加。泡殺鳥システムや移動焼却炉、広域防除機などの大型防疫資材を見学し、使用に関する手続きや使用方法の研修を受けた。今後、防疫措置案や防疫演習での使用について検

討していきたいと考えている。

図７　検疫所での備蓄防疫資材視察研修

７．家きん衛生研修会の開催

２月には家きん衛生研修会を開催予定。演題は、ホームセンターの災害対策センターの先生による、「家畜伝染病発生時における防疫物資、資材の供給と実際の対応例」と愛知県東部家畜保健衛生所の先生による、「長野県内にも移動制限のかかった愛知県での HPAI とその対応」。過去の具体例から学ぶことで、新たな面から家畜防疫について考えることができると思う。

８．まとめ

上伊那地域では文科省事業に続いてハード面での整備、関係機関との連携などソフトネットワークの強化を、防疫演習を中心に行い、迅速な情報共有、協力体制の理解促進、危機管理意識の向上に努めてきた。その成果として、今年度は各関係者が家畜防疫の当事者意識を持ち、研修会の開催・参加、防疫演習への参加・協力を積極的に行った。さらに、防疫体制の見直しや新たな取り組みを行うことで、地域での家畜防疫強化の取組を継続・発展させている。